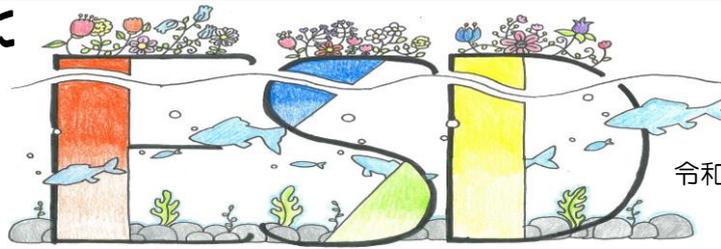


笑顔あふれる 世界のために
できることから始めよう!



令和4年 2月21日発行

第8号

卒業を控えた3年生の授業のようす

南稜中学校では、1年生の総合的な学習の時間をはじめると同時に、まず「持続可能な開発目標（SDGs）」について学びます。その後、梅田川を題材に、海ごみや水質汚染など環境問題の解決に3年間取り組みます。また、教科学習でもSDGsを意識した授業を展開します。例えば、中1理科ではプラスチックの利便性と問題点を、中3社会では貧困とフェアトレードを、中3英語ではレアメタルと絶滅危惧種を扱います。そんな中学校生活を過ごした3年生は、持続可能な社会の実現についてどう考えているのでしょうか。理科の授業のふり返りから、一部抜粋して紹介します。



卒業プロジェクトの一環で、奉仕作業に真剣に取り組む3年生

- ・私たちが豊かな生活を送れているのは、何かを犠牲にして成り立っているんだと思いました。そのせいで、動物や植物、地球が苦しい思いをしているのに、私たちはただのんきにこの生活をしてはいけなと思いました。
- ・今まで人間が発展することだけを考えて自分勝手に自然を破壊していき、今、その仕打ちをされているんだと思う。私たちは自然界に生かしてもらっている自覚をもち、一つ一つの行動に責任を持たなければいけない。
- ・飲み水を手に入れるのも困難な人がいるにも関わらず、資源を無駄にしているのはよくない。人間、動物、植物が共存し、それを持続できる世の中をつくるのが大切。そのために、コンビニやスーパーの昼間の照明の強さを落としたり、服や食器・文房具を長持ちさせたりするとよいと思う。
- ・電気自動車自体がCO₂を出さなくても発電所がCO₂を出しては意味がないと思う。日本は火力発電に頼っているので、再生可能エネルギーの発電効率を上げる必要があると思う。
- ・技術が発展し、私たちの生活が豊かになるのはいいけれど、そのせいで資源がなくなったり、一部の人や地域に悪影響を与えるのはよくない。5Gや無人自動車など言われていますが、あまりやりすぎるとよくないのでないかと私は思いました。電気自動車のバッテリーであるリチウムイオン電池を製造するのに必要なリチウムやコバルトを採掘する国では環境破壊や児童労働といった別の問題が発生している。
- ・人間が今の自分たちのことしか考えていないと将来生きる人たちの生活に大きな影響が出てしまうので、将来のことを考えて今を生きることが大切だと感じました。
- ・これから10年後、100年後も地球がいい環境であれるように、僕もできることを今からでもやっっていこうと思いました。まずは、買い物にマイバックを持っていくことから始めようと思います。
- ・車も水素で動くものがあるので、他の機械も水素で動くようになれば、化石燃料の使用を減らし、CO₂の排出を減らすことができる。日常生活では過剰梱包をなくしたり、夜遅くまで起きているとエネルギーをたくさん使うので早く寝て電気代を減らしたりしようと思いました。
- ・なるべく公共交通機関を利用すると一人が出すCO₂の量を減らすことができるし、経済がよくなるので一石二鳥ではないかと思いました。
- ・塾に行く時も遠くに行く時も、晴れや曇りの日は基本自転車を使っています。消しゴムはつまめるギリギリまで使い、古い服は油拭きにしたり、古い靴下は中に手を通してほり取りにしたりするなど、第二の人生を与えてからいつも捨てています。これからはさらに自分ができることを見つけて取り組んでいきたいです。

保護者のみなさん、ぜひ一度、お子さんの教科書を手にとってみてください。色鮮やかな紙面、豊富な資料にきっと驚かれると思います。また、どの教科でも環境問題や国際問題について扱っており、身近なところでお子さんとともに考えるきっかけになると思います。